

【問題】

次頁以下に掲げる文章は、川出良枝『平和の追求——18世紀フランスのコスモポリタニズム』（東京大学出版会、1993年）からの引用（一四二—一六四頁）である。この文章を読み、次の問いに答えなさい。

※問題作成のために原文には適宜改変を加えている。

問一 僕縁部（1）のサン＝ピエールのいう「ヨーロッパ連合」における加盟国間の紛争発生の防止及び紛争が生じた場合の解決はそれぞれいかなる形で図られ、それは何を目的とした構想であるのか、筆者の見解に即して説明しなさい。（十五行以上二十五行以内）

問二 僕縁部（2）において、サン＝ピエールはシユリの「大計画」を真似ているという立場をとつたとあるが、シユリとサン＝ピエールの考え方の違いを筆者の見解に即して説明しなさい。（十行以上二十行以内）

問三 僕縁部（3）において、サン＝ピエールは、「合意による仲裁機関」の設立を主張する。ここにいう「合意」はなぜ必要なのか、合意によらない仲裁機関の問題点に留意して、筆者の見解に即して説明しなさい。（五行以上十五行以内）